

# 外国人患者の受入環境整備に関する研究

(平成30年度 厚生労働省 政策科学推進研究事業)

## 背景

- 政府は、未来投資戦略において、「訪日・在留外国人患者が安心・安全に日本の医療機関を受診できるよう（中略）「外国人患者受入体制が整備された医療機関」の整備」に加え、「地域の実情を踏まえながら外国人患者の受入れ体制の裾野拡大に着手し、受入環境の更なる充実を目指す」と掲げている。
- 今後の課題として、①外国人受入体制が整っていない医療機関への支援②都道府県の取組の支援が必要

## 研究概要

- 医療機関における外国人患者受入れの在り方に関する研究
  - 医療機関向けの「外国人患者受入マニュアル」作成
    - 外国人患者数がそれ程多くなく、外国人受入体制が整っていない医療機関でも使用できる内容とし、訪日・在留外国人に対応するマニュアルを作成
- 自治体における外国人患者受入れ体制整備に関する研究
  - 自治体向けの「外国人患者受入マニュアル」作成
    - 平成30年度より都道府県単位で行う「地域における外国人患者受入体制のモデル事業」に研究班が伴走し、課題抽出・データ分析・解決案提示等を行いマニュアルを作成

## 分担研究者・研究協力者

- ・研究代表者：北川雄光 慶應義塾大学病院 病院長  
 ・分担研究者・研究協力者
- 佐野武 (公益財団法人がん研究会有明病院病院長)  
 八木洋 (慶應義塾大学医学部外科学(一般・消化器)専任講師)  
 秋元信吾 (慶應義塾大学医学部 外科学(一般・消化器)特任講師)  
 熊谷厚志 (公益財団法人がん研究会有明病院消化器外科副院長)  
 柴沼晃 (東京大学国際地域保健学教室助教)  
 岡村世里奈 (国際医療福祉大学院 医療経営管理分野准教授)  
 岩田光晴 (慶應義塾大学病院)  
 鹿野晶子 (公益財団法人がん研究会有明病院)  
 柏野聡彦 (一般社団法人日本医工ものづくりコンモズ専務理事)

## 研究事業体制

